



学習項目	内容
<p>日本語教育概論</p> <p>32 単位時間</p>	<p>日本語教育とはどんなものでしょうか。その歴史から現場までを、さまざまな面から概観し、日本語教育に関する基礎知識を学びます。</p>
<p>教材作成の方法</p> <p>16 単位時間</p>	<p>日本語教育の現場で使用する教材について理解し、教材の作成の基礎を学びます。これを勉強すると、自分で教材を作れるようになります。</p>
<p>評価</p> <p>16 単位時間</p>	<p>評価の目的と方法を学びます。特に、テストによる評価について、グループ活動やディスカッションを通して理解を深め、テストの設計と得点の分析ができるようになります。</p>
<p>言語学</p> <p>38 単位時間</p>	<p>音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論を中心とした言語学各分野の知識を習得し、実際に言語の分析に役立てることができるようになります。</p>
<p>音声学</p> <p>26 単位時間</p>	<p>日本語の正しい発音とその発声法を理解し、学習者の発音に誤りがあると感じたときに、適切に矯正できるようになります。</p>
<p>教授法</p> <p>42 単位時間</p>	<p>伝統的な教授法から新しい教授法を考察する中で、実際に学習者に教える際、どの教授法を用いれば学習効果を上げることができるか、また、どのように教授法を組み合わせればよい授業ができるか考えることができるようになります。</p>

学習項目	内容
<p>日本語教育と文法</p> <p>38 単位時間</p>	<p>外国語としての日本語を教える場合に知っていなければならない文法の基礎知識を理解し、外国人が間違いやすいポイントなどを、わかりやすく説明するスキルを習得します。</p>
<p>社会・心理</p> <p>36 単位時間</p>	<p>言語習得における基礎知識と言語教育に必要な心理学の基礎知識、及び異文化理解、異文化接触、異文化コミュニケーションに関する基礎的知識を学び、日本語教育の実践に応用する能力を身に付けます。</p>
<p>初級実習 1</p> <p>20 単位時間</p>	<p>学習者を理解し、日本語教材の効果的な使い方を考えることができるようになります。授業見学を通して教師の姿勢を学び、自分の課題を再確認します。</p>
<p>初級実習 2</p> <p>52 単位時間</p>	<p>初級レベルの基礎知識を習得し、教案が作成出来るようになります。また、学習者の視点に立った教え方が出来るようになります。</p>
<p>初級実習 3</p> <p>48 単位時間</p>	<p>授業中、教師としての役割を十分に果たすことができます。また、他者の授業から課題を見つけ、自らを高める糧にすることができます。(教壇実習 90 分)</p>
<p>中級実習</p> <p>58 単位時間</p>	<p>初級レベルとの違いを理解して、中級レベルの教材を使って授業の組み立て方を学びます。模擬授業を重ね、教壇実習ではビデオ撮影を行います。(教壇実習 45 分)</p>
<p>日本語教育能力検定対策</p> <p>20 単位時間</p>	<p>「日本語教員となるために学習している方、日本語教育に携わっている方に必要とされる基礎的な知識・能力を検定することを目的」(主催団体のHPより)とした検定試験の研究対策講座です。全ての講座の総復習です。</p>

早稲田文化館日本語教師養成講座420時間【通学コース】 修了要件

各科目の合格点は以下の通りとする。

科目	合格点	評価方法
日本語教育概論	70%	小課題5回(30%)、中間テスト(20%)、最終テスト(20%)、最終レポート(30%)
教材作成の方法	70%	小テスト3回(20%)、教材作成(40%)、最終レポート(40%)
評価	70%	小テスト3回(40%)、テスト作成(30%)、最終レポート(30%)
社会・心理	60%	確認試験
言語学	80%	小テスト16回(50%)、まとめレポート19回(50%)
音声学	70%	小テスト10回(40%)、中間テスト(30%)、最終テスト(30%)
教授法	80%	小テスト16回(50%)、最終テスト(30%)、提出物(20%)
日本語教育と文法	70%	レポート(50%)、最終テスト(50%)
初級実習1	70%	ワークシート(20%)、最終レポート(80%)
初級実習2	70%	教案・教材作成(50%)、模擬授業(40%)、作文添削(10%)
初級実習3	70%	教案・教材作成・模擬授業(30%)、教壇実習(40%)、最終レポート(30%)
中級実習	70%	ワークシート(10%)、模擬授業(40%)、教壇実習(50%)
検定対策		模擬試験(100%)

各科目出席率80%以上で評価対象とする。

※オリエンテーションは必ず出席しなければならない。

当校の講座442単位のうち、354単位以上取得した場合、修了と認める。

修了が認められなかった場合、及び休学した場合は次期開講時に改めて受講することになる。



早稲田文化館日本語教師養成講座420時間コース



学習項目	内容
文法	現代日本語の文法に関する基礎的知識とそれらを客観的に分析する能力を身に付け、日本語学習者に応じてそれを適切に活用・伝達できるようになります。
52 単位時間	
言語・教育	学習活動を計画し、それを客観的に分析し、学習活動上の問題及び学習者のかかえる問題を把握して解決するための教授・評価等に関する基礎的知識を身に着けます。
52 単位時間	
社会・心理	言語教育・言語習得及び言語使用と社会との関係を共時・通時的に考えると共に、言語教育に必要な学習理論、言語理解、認知過程に関する心理学の基礎知識を身に着けます。
52 単位時間	
音声	現代日本語の音声・音韻に関する基礎知識とそれらを客観的に分析する能力を身に着けます。
52 単位時間	
初級実習 1	学習者を理解し、日本語教材の効果的な使い方を考えることができるようになります。授業見学を通して教師の姿勢を学び、自分の課題を再確認します。
20 単位時間	
初級実習 2	初級レベルの基礎知識を習得し、教案が作成出来るようになります。また、学習者の視点に立った教え方が出来るようになります。
52 単位時間	

学習項目	内容
初級実習 3 48 単位時間	授業中、教師としての役割を十分に果たすことができます。また、他者の授業から課題を見つけ、自らを高める糧にすることができます。(教壇実習 90分)
中級実習 58 単位時間	初級レベルとの違いを理解して、中級レベルの教材を使って授業の組み立て方を学びます。模擬授業を重ね、教壇実習ではビデオ撮影を行います。 (教壇実習 45分)
中上級実習 40 単位時間	中級実習を踏まえ、さらに上のレベルの授業が出来るようになります。 オンライン授業も出来るようになります。

早稲田文化館日本語教師養成講座420時間【eラーニングコース】修了要件

各科目の合格点は以下の通りとする。

科目	合格点	評価方法
文法	70%	テストのみ
言語・教育	70%	テストのみ
社会・心理	70%	テストのみ
音声	70%	テストのみ
初級実習1	70%	ワークシート（20%）、最終レポート（80%）
初級実習2	70%	教案・教材作成（50%）、模擬授業（40%）、作文添削（10%）
初級実習3	70%	教案・教材作成・模擬授業（30%）、教壇実習（40%）、最終レポート（30%）
中級実習	70%	ワークシート（10%）模擬授業（40%）、教壇実習（50%）
中上級実習	70%	模擬授業（40%）、教壇実習（60%）

実習科目は出席率80%以上で評価対象とする。

当校の講座426単位時間数のうち、341単位時間数以上取得した場合、修了と認める。

また、各科目の評価方法で70%以上の成績を収めた者を修了と認める。

修了が認められなかった場合、及び休学した場合は翌年度に改めて受講することになる。



早稲田文化館日本語教師養成講座420時間コース